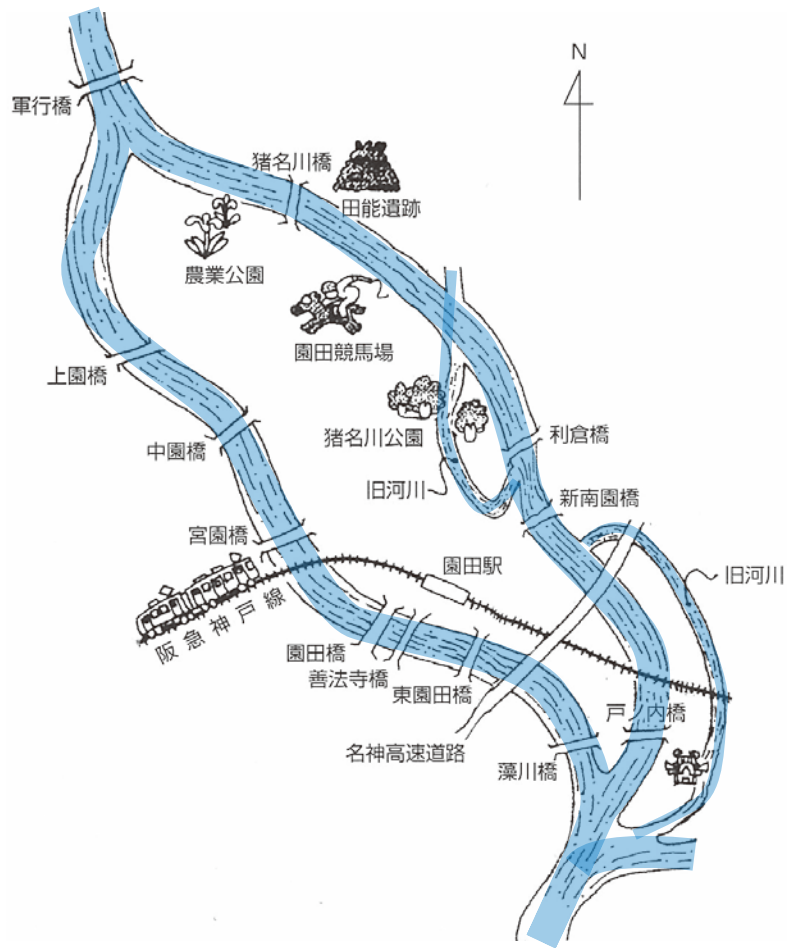


# 猪名川・藻川

## にいだかれて

東園田町は、尼崎市の東端にあり、東は猪名川、西は藻川に囲まれた中州になっています。

昭和44年の大改修工事の後、旧の堤防跡は「猪名川自然林」として、多くの自然が残されています。また、園田競馬場の近くには四季折々のやすらぎを提供してくれる「農業公園」があります。



利倉橋の向こう側は豊中市、伊丹空港に降りる飛行機。



東園田町の南側を流れる藻川に掛かる東園田橋、渡ると弥生が丘霊園。



園田橋、南にいくとJR尼崎2号線、43号線へ。



阪急神戸線の北側に掛かる宮園橋



藻川の河川敷にある野球のグラウンド。  
後の橋は中園橋。

# 猪名川・藻川にいだかれて

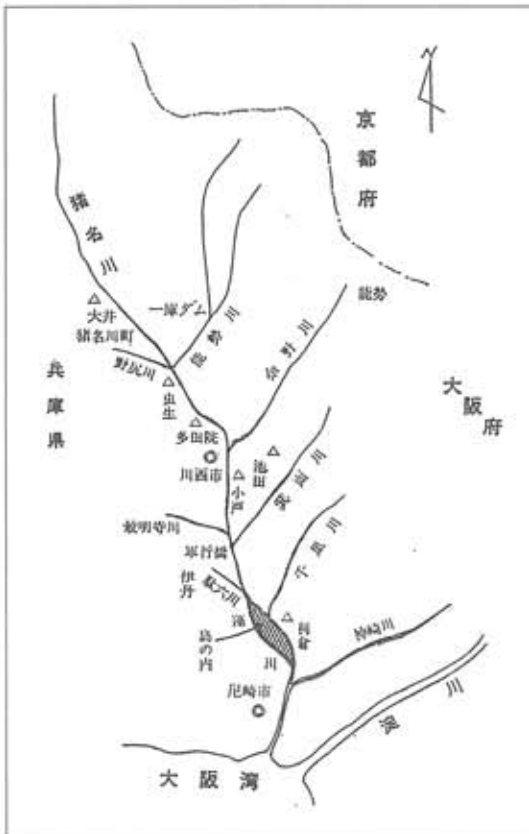
園田橋より上流を臨む（藻川）



猪名川の堤防より上流を臨む



猪名川の流路



猪名川は摂丹の境界、大野山を源とし、多くの川を合流しながら伊丹市口酒井付近で藻川を分流し、戸ノ内地先で再び藻川を合わせ神崎川に合流する。流域は大阪・京都・兵庫の二府一県にまたがり、流路延長は四三・二kmである。

猪名川は、昔から両岸が狭く、自然的に支流藻川が形づくられ、藻川は本流猪名川の補助的役割りを果たしてきたが、一九六四年（S39）、両河川は第一級河川となり、その両堤は整備され地域住民の憩の場となっている。

かつて両河川は、農民にとって命よりも大切な水源であり、多くの井堰の樋門が設けられていたが、旱魃期には幾度となく水論が起り、流血の惨事を引き起こした。

また、この水運を利用して上流から材木を筏

に組んで流したり、伊丹や池田の酒を川舟で運び、神崎の泊りで海船に積み替えて遠く江戸まで運んだ。

一方、両河川に囲まれた東園田（島の内）地区は、夏は蛍が飛びかい、河鹿の音色、秋は松虫、鈴虫の音の風情という長閑な田園風景から、豪雨ともなれば一変、両河川とも氾濫し、家も田畑も水没した。住民は幾度となく為政者に陳情をくり返した。しかるにこの島の内地区は、他地区の損害を最小にするために、一時的な滞水池とされてきたのであり、豪雨の度ごとに犠牲を余儀なくされていたともいわれる。

住民が枕を高くして眠ることができるようになったのは、一九六九年（S44）猪名川・藻川改修工事完了以後のことである。